

令和３年度 第２回東京都障害者ピアサポート研修カリキュラム検討委員会 ＜議事要旨＞

1 会議概要

- (１) 開催日時 令和３年１０月１４日（木曜日）１０時００分から１２時００分まで
- (２) 開催方法 オンライン開催

2 議事内容

下記の基礎研修に係る検討事項について、事務局より資料４に基づいて説明し、意見交換を実施

(１) 研修全体について

【主な意見】

《スケジュールについて》

- ・令和４年度の専門研修の実施予定は、準備期間を確保するため、基礎研修終了から２、３か月程度空けてから実施したほうが良いのではないか。

《知的障害者の方への合理的配慮について》

- ・平成３０年度厚生労働科学研究費補助金では、知的障害者の方にも配慮した「基礎研修わかりやすい版テキスト」が整備されているため、必要に応じて東京都の研修でも活用を検討を。
- ・研修では、全般的にわかりやすい表現を使用したほうが良い。

《演習全般について》

- ・初めてグループワークに参加される当事者の方もいらっしゃると思うので、ファシリテーターには、場の緊張感をほぐす役割も求められる。
- ・最初に、「障害領域等が違っていてもお互いの意見を尊重しましょう」などのグラドルールの紹介を行うことで、グループの安心感を担保できるかもしれない。

(２) 基礎研修全体のねらいについて

【主な意見】

《セルフマネジメントの観点》

- ・ピアサポーターが、自身の体調管理にも気を付けながら、しなやかな芯を持って持続的にピアサポートの力を発揮するためには、セルフマネジメントが必要。ピアサポーターの早期離職を防ぐためにも、そうしたセルフマネジメントの観点を、基礎研修の段階から触れておいても良いのではないか。

《協働の意義》

- ・専門職の方で、まだピアサポーターと一緒に働いたことのない方も受講することを考えると、ピアサポーターと協働することがどういうことか、基礎研修のどこかで触れたほうがよい。
- ・専門職とピアサポーターの協働について、あえて整理するならば、専門職は課題解決型支援が比較的得

意で、ピアサポーターは伴走型支援が比較的得意だと思う。これらの両輪が、障害者の支援には必要なのでは。

(3) 基礎研修の各項目について

【主な意見】

《「ピアサポートの理解」の項目について》

- ・初回の演習なので、ファシリテーターには、あらゆる意見を受け入れて和やかな雰囲気の中で演習を進め、グループを温めることが求められる。
- ・初回の自己紹介も兼ねたこの演習の中で、ファシリテーターはグループ内の参加者の特徴を十分に把握することが大事。そうすることで、グループワークに入れない方が出てこないように個人の特徴に応じた配慮ができる。

《「ピアサポートの実際・事例」の項目について》

- ・本項目の演習では、参加者が多様な障害領域のピアサポート活動を理解するため、それぞれのピアサポーターの経験を語っていただく。ピアサポーターとしての経験のない当事者の方や、専門職の方が、尻込みされたり自信をなくされたりすることのないよう、ファシリテーターには、気遣いが求められる。
- ・本項目の演習でいう「経験」は、必ずしもピアサポーターとしての経験だけではなく、たとえば自立生活の経験やリカバリーしていく経験など、幅広い意味を指すと思う。必要があれば、設問の補足説明をしても良いと思う。

《「コミュニケーション」の項目について》

- ・本項目の演習は、単に『YOU メッセージ』を『I メッセージ』に変えてみましょう」ということではなくて、ワークを通してグループの中でお互いに言い合うことで、参加者に「そういうふうに言われると全然違う」などと新たな気づきを得てもらうことが大事。
- ・「相手を攻撃しない・責めない」という意図で『私』を主語にして言い換えましょう」というコミュニケーションの基本を体感してもらう演習。しかし、演習意図をファシリテーターが気を付けて伝えないと、「私の意見を相手に言いなさい」という誤った意味に受け取られる懸念もある。演習の獲得目標を参加者に明確に伝えることが大切。

《「ピアサポートの基礎と実際」の項目について》

- ・特に、ピアサポーターの活躍が想定される障害福祉サービス等事業所の説明に力点を置いた講義説明ができるとう良い。
- ・時間の割に内容量の多い項目。基礎研修で伝えきれない部分は、専門研修で深められるとう良い。

《「ピアサポートの専門性」の項目について》

- ・各障害領域に配慮した言葉を使用できるよう、検討できたら良い。